



# 町村自治

1月 2013 平成 25年

● 発行所 青森県町村会 ● 編集発行人 山口 昇 ● 印刷所 長尾印刷(株)  
〒030-0801 青森市新町二丁目4番1号(年4回発行) TEL 017-723-1331 FAX 017-723-1347  
ホームページ <http://www.aomori-chousonkai.jp/> E-mail [ack@aomori-chousonkai.jp](mailto:ack@aomori-chousonkai.jp)



## かざまうらあんこう 「風間浦鮫鱈」千人鍋

「風間浦鮫鱈」のブランド化を目指す風間浦村では、旬を迎える「風間浦鮫鱈」のフルコース料理が地元の宿で3月末まで堪能できます。

また、2月10日には「風間浦鮫鱈」まつりの特別イベントが下風呂漁港内で開催され、「風間浦鮫鱈」の雪中切り実演や鮫鱈千人鍋、鮫鱈寿司、鮫鱈鍋セットを目当てに県内外から観光客が訪れます。

【No. 1197】

「風間浦鮫鱈」をブランド化へ！ かざまうらむら 風間浦村

- 新年のごあいさつ…………… 2
- 全国町村長大会…………… 4
- 負担金等委員会ほか…………… 6
- まちづくりへの挑戦 おいらせ町…10
- いまが旬！……………12
- 随想 飯田風間浦村長……………16

行くたび、  
あたらしい。  
青 AOMORI 森



マスコットキャラクター  
「いくべえ」



# 新春にあたり

青森県町村会長 越 善 靖 夫

新年あけましておめでとうございます。

町村長をはじめ関係各位におかれましては、新春をお健やかに迎えのこ  
とと心からお慶び申し上げますと  
に、日頃の本会に対する御理解と御協  
力に厚く御礼申し上げます。

昨年末、衆議院選挙が行われ政権が  
交代しましたが、新たな政権により、  
地域社会や国民生活における様々な不  
安要因を取り除き、安心できる国民生  
活を守るための政治が発揮されること  
を期待するものであります。

さて、東日本大震災から一年十カ月  
余が経過しました。被災地では、本格  
的な復興に向けた取り組みがなされて  
おりますが、被災者の一日も早い生活  
再建、被災企業への支援、農林畜水産  
物の風評被害対策、観光産業対策等、  
まだまだ課題も数多くあり、地域の再  
生を強く願うものであります。

現在、わが国は円高・デフレ基調が  
続く厳しい経済環境の中、財政健全化  
や地域主権改革はもとより、震災から  
の復興や医療・介護、年金といった安

定的な社会保障制度の構築など、この  
国の行く末を左右する極めて重要な政  
策課題が山積しております。

われわれ町村もまた、限られた財源  
の中、地域特性や資源を活かした施策  
を展開し、豊かな住民生活と個性溢れ  
る多様な地域づくりに邁進していかな  
ければなりません。

こうした情勢を踏まえ、本会では町  
村が直面している喫緊の課題に対応す  
るため、要請活動等を通し、町村の声  
を訴えて参りました。

七月には、本会と県、市長会の合同  
により、県選出国会議員に対し、震災  
の復興対策や地方財政基盤の充実・強  
化などの重点施策について説明すると  
ともに、民主党並びに自民党、関係省  
庁に対し重点施策の要請活動を実施し  
ました。また、市町村長会議では本会  
からの提言事項を県に説明したほか、  
昨冬の豪雪等による農業被害対策や、  
県立高等学校教育改革第三次実施計画  
【後期】（案）などについても、適時適  
切な要請活動等を実施してきたところ  
であります。

## あけましておめでとうございます

青森県町村会

会 長 越 善 靖 夫

副 会 長 須 藤 良 美

同 関 和 典

理 事 森 内 勇

同 吉 田 満

同 鈴 木 孝 雄

同 野 坂 充

同 金 澤 満 春

同 浜 谷 豊 美



今後とも町村の立場から、県並びに国に対し、これまで我々が主張してきたことについて、着実に実効ある施策を展開し、目に見える形で成果をあげよう改めて強く主張して参りたいと思えます。

ところで、昨年十二月で、東北新幹線全線開業から早くも二年が経過しましたが、その開業効果を最大限に活かして継続するため、各町村の魅力を活用し発信する必要があります。

このため本会では、町村が持つ自然・歴史、文化、物産等多彩な魅力の活用による交流人口の拡大及び観光客の増大等を図るための事業に対し、市町村振興協会の支援も得ながら助成する「町村の魅力発信事業」を実施し、支援したところであります。

申し上げるまでもなく、町村が自主的・主体的な地域づくりを進めていくためには、その財政基盤の強化が不可欠であり、安定的な自主財源の確保が図られなければなりません。そして、何よりも、地方交付税制度を堅持し、財源保障機能と財源調整機能をより強化するため、三位一体改革で大幅に削減された地方交付税の増額が必要であります。

今後、一月下旬から二月にかけて、二十五年年度税制改正大綱や、政府予算における地方財政対策が決定されることとなりますが、いずれにいたしましても、厳しい地方税収の減少や三位一体改革による地方交付税の大幅な削減など疲弊した地方財政に配慮し、財政

力の弱い自治体に適切に措置することを、引き続き国に求めていく所存であります。

また、廃止が議論されている自動車取得税の交付金は、町村にとって貴重な財源であり、自動車重量税譲与税とともに、見直す際は、代替財源が確実に確保される必要があると考えております。

次に、例外なく関税や規制を撤廃するTPPは、農林漁業だけでなく、地域経済・社会の崩壊を招くなど、我が国の根幹を揺るがしかねません。国民の命を支える農林水産業と国土・自然環境を守り、伝統・文化を育む農山漁村の再生・活性化こそが優先されるべきであり、本会としてはTPP交渉への現状での参加に反対するとともに、引き続き、国の動向を注視していかねければなりません。

本会では、活力あふれる地域社会と輝かしい未来の実現に向け、今後とも町村長相互の連携を一層強固なものとし、直面する困難な課題に積極果敢に取り組むとともに、県をはじめ全国町村会、関係機関と連携し、山積する諸課題の解決に向けて全力を尽くして活動を展開して参る所存でありますので、引き続き皆様方の御支援と御協力をお願い申し上げます。

町村長をはじめ関係各位の益々の御健勝と御活躍、また地域社会の発展を心から祈念いたしましたして、新年の御挨拶といたします。

## 謹んで新春のお慶びを申し上げます

監事 小 鹿 正 義

同 古 川 健 治

同 東 條 昭 彦

常務理事兼事務局長

山 口 昇  
ほか職員一同

青森県市町村総合事務組合

管理者 越 善 靖 夫

青森県広報広聴協議会

会 長 越 善 靖 夫

全国山村過疎地域振興連盟  
青 森 県 支 部

支部長 太 田 健 一

発電関係市町村全国協議会  
青 森 県 支 部

支部長 関 和 典

# 震災の早期復興などを訴える 道州制導入反対の特別決議を採択

全国町村長大会



全国町村会は、十一月二十一日、東京都のNHKホールで全国町村長大会を開催し、県内町村長をはじめ、全国の町村長など約一千五百人が参加した。

大会では、はじめに藤原全国町村会長（長野県川上村長）があいさつし、「誇りある、それぞれの地域づくりのために、今後とも、町村長相互の連携を一層強固なものとし、直面する困難な課題に積極果敢に取り組んでいきたい」と参加者に訴えた。

この後、野田内閣総理大臣などの来賓あいさつに続き、町村長への応援メッセージとしてフリーアナウンサーの青山佳世氏が参加者を激励した。その後、議事に入り、町村行財政をめぐる諸問題解決に向けた八項目の決議案と、道州制の導入に反対する特別決議を付議し、満場一致で採択された。さらに、三十五項目の大会意見も一括採択された。大会の決議事項及び特別決議は次のとおり。

## 決議（項目抜粋）

一、東日本大震災からの早期

の復興を図るとともに、全国的な防災・減災対策を強力に推進すること。

一、真の地方分権改革を強力に推進すること。

一、地方交付税を還元・増額するとともに、財源調整・財源保障の両機能を堅持すること。

一、自動車取得税及び自動車重量税を見直す際は、町村の代替財源の確保を前提とすること。

一、食料・木材自給率の向上により、農山漁村の再生・活性化をはかること。

一、地域経済・社会の崩壊をまねくTTPPには参加しないこと。

一、国民皆保険を堅持するため、都道府県を軸とした保険者の再編・統合を推進し、医療保険制度の一本化をはかること。

一、領土・外交問題に毅然とした姿勢で臨むこと。

## 自治功労者の推薦等を決定 第5回理事会



理事会の様子

本会は十月三十一日、青森市の県共同ビルで理事会を開催した。出席者は越善会長をはじめ役員町村長九人。理事会では、全国町村会表彰規程による自治功労者の推薦など三件の事項を協議した。協議事項は次のとおり。

### 協議事項

○全国町村会表彰規程による自治功労者の推薦について  
自治功労者として二名を推薦

する。  
○青森県町村会表彰規程による被表彰者について  
自治功労者として九十三名を被表彰者とする。  
○県選出国会議員との懇談会並びに平成二十四年度北東北三県町村長中央研修会及び北東北三県町村長中央交流会の開催について  
懇談会は十一月二十日、研修会及び交流会は十一月二十一日、全国町村長大会終了後に開催する。

## 23年度の 決算を認定

県市町村総合事務組合

県市町村総合事務組合は、十一月九日、青森市の県共同ビルで第二回議定会定例会を開催した。出席者は越善管理者をはじめ議員等の市町村長八人。

定例会では、議案五件を審議し、それぞれ原案どおり承認、決定した。

○議案第一号 平成二十三年度青森県市町村総合事務組合

一般会計歳入歳出決算の認定を求めるの件  
収入済額十一億五千二百五十五万二千余円に対して支出済額十一億二千二百八十九万一千余円で、歳入歳出差引二千九百六十六万一千余円。

特別会計補正予算（補正第二号）案  
市町村税滞納整理事業の前年度繰越金の処分について、繰越金の増額分をもって市町村税等滞納整理負担金を減額補正して調整する。

○議案第二号 平成二十四年度青森県市町村総合事務組合一般会計補正予算（補正第一号）案  
本組合各事業の前年度繰越金の処分については、非常勤職員災害補償事業は今後見込まれる災害補償に充てること、それ以外の二事業は財政調整基金に積み立てる。

○議案第四号 青森県市町村職員退職手当組合を組織する地方公共団体数の減少及び青森県市町村職員退職手当組合規約の変更について  
三戸郡町村会館管理組合が二十五年三月三十一日をもって解散するため。  
○議案第五号 監査委員の選任について同意を求めるの件  
任期満了のため、古川六ヶ所村長を再任。

## 特別決議

我々は平成20年の全国町村長大会特別決議以来、一貫して道州制の導入には反対してきた。なぜなら、道州と基礎自治体という二層構造を想定し、地域の実態や住民の意向を顧みることなく市町村の再編を強いることとなれば、我が国にとって重要な役割を果たしてきた多くの農山漁村の自治は衰退の一途を辿り、ひいては国の崩壊につながるからである。

現存する町村と多様な自治のあり方を決して否定してはならない。一方、これまでの道州制論議は、国民的な議論がない中で、現行の都道府県制度のどこにどのような問題があるのか、道州制は一体何をもちよめるのか、道州制での国と道州、基礎自治体の具体的な役割、税財政制度等について明らかにされないまま、あたかも今日の経済社会の閉塞感を打破しようとするような変革の期待感だけを先行させ、主権者たる国民の感覚からは遊離したもとなっている。

道州制は、地方分権の名を借りた新たな集権体制を生み出すものである。また、税源が豊かで社会基盤が整っている大都市圏へのさらなる集中を招き、地域間格差は一層拡大する。加えて、道州における中心部と周縁部の格差も拡がり、道州と住民の距離が遠くなって、住民自治が埋没する懸念すらある。

もとより、どの地域においても国民一人ひとりが安心して暮らすことのできる国土の多様な姿に見合った多彩な市町村の存在こそが地方自治本来の姿であり、この国の活力の源泉であることを忘れてはならない。

よって、我々は、改めて道州制の導入に反対していく。

平成24年11月21日

全国町村長大会

## 北東北三県町村長 中央研修会

中央研修会

本会、岩手県町村会、秋田県町村会、十一月二十一日、三者合同により、東京都のホテルニューオータニで北東北

三県町村長中央研修会を開催した。出席者は各県町村長及び事務局長等約八十人。

研修会では、越善会長のあいさつに続き、ジャーナリストの櫻井よしこ氏が「時局展望」と題し講演した。

# 25年度法令外負担金を審査

## 負担金等委員会



25年度法令外負担金を審議

町村行財政の安定と効率的運営を図るため開催するもの。

二十五年度の法令外負担金規制団体は四十八団体（対前年度比 三団体減）で、総額九千八百四十九万二千七百五十円（対前年度比二百萬四千五百四十円減）の申請があり、審議の結果、二十五年度の負担額は、申請額通り決定した。また会議では、各法令外団

体は新たな視点で目的や事業の抜本的な検討・協議が必要であるとの認識の下、各法令外団体に対し、次の事項を申し入れすることとした。

1. 予算における繰越金等を含めた団体運営のあり方について抜本的な見直しをし、更なる経費節減に努め、町村負担金の減額に向けて賦課基準の見直し等を行うこと。

2. 町村負担金は、本

3. 会員市町村数の減少に伴い、均等割負担金を増額しないこと。また、賦課基準とする数値が減少した場合は、現行の町村負担金を維持するため、賦課基準の単価を増額しないこと。

4. 他団体と統合した団体においては、統合に伴う事務運営の効率化により町村負担の軽減を図ること。

会への申請額を上限とし、事業費等の増額に連動し町村負担総額を増額しないこと。

法令外負担金承認額の概要

25年度	承認団体	承認額
		48団体
24年度	承認団体	承認額
		51団体
増減	団体数	金額
	△3団体	△2,004,540円

本会は十月三十一日、青森市の県共同ビルで負担金等委員会を開催した。出席者は越善会長をはじめ委員の町村長八人。

本委員会は、各町村の非常に厳しい財政状況の中、財政をさらに圧迫する法令外負担金等の負担内容を明確化し、

# 空き家対策条例の制定検討

## 第二回町村自治振興会議



会議には各町村担当者等約50人が参加

るもの。「空き家対策」をテーマにした本会議は、九月の第一回に続き今回で二回目の開催となった。

会議には、各町村担当者のほか、アドバイザーとして青森公立大学経営経済学部の天野巡一教授、また、県からはオプザーバーとして市町村振興課をはじめ、空き家対策関係課など約五十人が出席した。

本会は十月二十六日、青森市のホテルクラウンパレス青森で第二回空き家対策に係る町村自治振興会議を開催した。本会議は、本会の新たな事業として、県内町村が抱える様々な課題について、町村間で連携しながら現状と問題点を洗い出し、課題解決に向け調査研究を行い、町村振興に寄与することを目的に実施す

会議では、具体的な条例制定に係る検討として、県内でいち早く空き家対策条例の制定を検討している中泊町の秋元総務課長が、同町空き家等の適正管理に関する条例（案）について説明したほか、事務局より地方公共団体の条例による空き家等の定義、規制的手法及び誘導的手法等の例について説明し、これらを基に参加者による意見交換を行った。

# 手嶋龍一氏を講師に迎え

## 市町村長等特別研修会を開催

本会は、県市長会、県市町村振興協会との共催により、十月三十一日、青森市のアツプルパレス青森で市町村長等特別研修会を開催した。出席者は市町村長や幹部職員等約百五十人。

はじめに、越善会長が「住民に最も身近な市町村の役割はより一層増しており、住民本位の施策等に取り組み、安全・安心なまちづくりを進める必要がある。また、最近の竹島や尖閣諸島の領土をめぐる外交問題による様々な影響が懸念され、政府の対応等を注視しなければならない」とあいさつした。

研修会では、外交ジャーナリストで作家の手嶋龍一氏が「動乱の東アジア〜周辺国の攻勢と日米同盟」と題し講演した。

手嶋氏は、米大統領選挙の行方を展望。勝敗の決め手は経済の動向とし、とりわけ失業率がポイントになるとの見解を示した。

また、尖閣諸島問題や竹島問題等での日中韓情勢の分析の折、ともに情報と翻訳されるインターネットとインフォメーションの相違について説明した。



手嶋龍一氏が外交をテーマに講演

インターネットとインフォメーションの相違について説明した。膨大な一般情報（インフォメーション）の海から、貴重な情報の原石を選び抜いてその真贋を確かめ、周知な分析を加え、情報が意味する全体像を描き出すこと。そして、組織のかじ取りを委ねられたリーダーが決定的な決断に踏み切るに当たって役立つよ

う精選された情報がインターネットとインフォメーションであること述べた。また、情報収集、情報分析、情報精査等の一連のインターネットとインフォメーションが機能するかどうかが決定的な違いになってくると述べた。

また、アジア太平洋の経済連携の枠組みには、TPP対ASEAN+6の構図があるとし、世界第三の経済大国である日本の選択肢は、米を盟主とするTPPなのか、または中国を核とするASEAN+6なのか、日本にとって非常に重要な選択に迫られている、などと述べた。



研修会には市町村長等約150人が参加

意見交換では、空き家の撤去だけではなくグリーンツーリズムなど有効活用の観点、空き家所有者の範囲など幅広い議論が交わされ、規制的手法と誘導的手法を組み合わせながら、まちづくり、中心市街地活性化、環境の適正化、住環境の適正化を図るという位置付けで、条例、対策を練り直し検討していく必要がある

意見交換では、空き家の撤去だけでなくグリーンツーリズムなど有効活用の観点、空き家所有者の範囲など幅広い議論が交わされ、規制的手法と誘導的手法を組み合わせながら、まちづくり、中心市街地活性化、環境の適正化、住環境の適正化を図るという位置付けで、条例、対策を練り直し検討していく必要がある

るなどといった意見が出された。空き家対策は、暴風による屋根のトタン等の飛散及び家屋の倒壊による隣接する住宅への被害や道路封鎖への懸念、今冬の豪雪による倒壊など、住民の安心安全な暮らしのための防災、防犯対策上、県内町村においても、ますます重要な課題となっている。

意見交換では、空き家の撤去だけでなくグリーンツーリズムなど有効活用の観点、空き家所有者の範囲など幅広い議論が交わされ、規制的手法と誘導的手法を組み合わせながら、まちづくり、中心市街地活性化、環境の適正化、住環境の適正化を図るという位置付けで、条例、対策を練り直し検討していく必要がある



アドバイザーを務める青森公立大学の天野巡一教授



中泊町の条例（案）を基に意見交換

# 町村長選挙結果

深浦町長

吉田 よした

満 みつる 氏



任期満了に伴う深浦町長選挙は、十一月二十日、告示され、現職の吉田満氏（59）が、無投票で再選を果たしました。  
〈略歴〉町議会議長

田舎館村長

鈴木 すずき

孝雄 こうゆう 氏



任期満了に伴う田舎館村長選挙は、十月二十八日、投票が行われ、現職の鈴木孝雄氏（75）が、三選を果たしました。  
〈略歴〉村議会議長

横浜町長

野坂 のざか

充 みつる 氏



任期満了に伴う横浜町長選挙は、十一月二十七日、告示され、現職の野坂充氏（61）が、無投票で三選を果たしました。  
〈略歴〉町議会議長、町観光協会会長

## 魅力ある広報紙づくりを目指して

### 広報広聴担当者研修会



市町村の広報広聴担当者約40人が参加

めた各団体に対し、表彰状を授与した。

研修では、株式会社メディアアブレン代表で全国広報コンクール広報紙部門及び写真部門審査委員の吉村潔氏が「地域に輝き、地域をつなぐ広報紙づくり〜広報スキルアップ講座〜」と題し、講演した。



広報アドバイザーの吉村潔氏が講演

本会に事務局を置く県広報広聴協議会は、本会との共催により、十月十七日、青森市のアップルパレス青森で県市町村広報広聴担当者研修会を開催した。出席者は市町村の広報広聴担当者約四十人。

研修会に先立ち、はじめに二十四年県広報コンクール表彰式を行い、広報紙総合の部特選の中泊町及び準特選の三沢市をはじめ、広報紙、写真、映像各部門で優秀な成績を修

吉村講師は、全国広報コンクール審査委員としての経験等を踏まえ、魅力ある広報紙づくりのポイントや実務的なテクニク等について説明し、その中で、「広報の目的、ねらいを明確にすることで、広報活動に計画性が生まれ、紙

面づくりやページ配分も変わってくる。また、読者視点と作り手視点を持ち、「読めばわかる」という発想を捨て、最初から『読む気になる』広報を目指すべき』などと述べた。さらに、「企画発想の際には、ただの『説明』にならないよう、素材やモチーフを編集しながら全体の構成（ストーリー）をつくり、情報やキーワードを分類・整理しながら紙面を構成していくことで、紙面の最適化が図られ、手にとって読みたくなる広報紙になる」などと説明した。

研修後半は、県内市町村広報紙四紙を題材に広報紙クリニクを行い、参加者は今後の広報紙づくりに活かそうと熱心に耳を傾けた。

最後に、連絡事項として県広報広聴課より今年度の年間重点広報計画の概要や、ソーシャルメディアを活用した「青森県庁ライブコミュニティ」「あおり映像コンテンツ」「プロモーション」について紹介があったほか、事務局が本協議会の概要等について説明した。

大間町長

かなざわ  
金澤

みつはる  
満春 氏



任期満了に伴う大間町長選挙は、十二月十八日、告示され、現職の金澤満春氏(62)が、無投票で三選を果たしました。  
(略歴)町助役、町企画調整課長

三戸町長

たけはら  
竹原

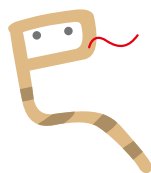
よしと  
義人 氏



任期満了に伴う三戸町長選挙は、十一月十八日、投票が行われ、現職の竹原義人氏(62)が、再選を果たしました。  
(略歴)町議会議員

●平成25年町村長の選挙一覧(月日は任期満了日)

東通村	4月12日	新郷村	5月28日
佐井村	4月21日	今別町	10月12日
外ヶ浜町	4月23日	蓬田村	11月8日
中泊町	4月23日	階上町	12月23日
七戸町	4月23日	鯡ヶ沢町	12月26日
東北町	4月23日		



青森県町村長等名簿

平成25年1月1日現在  
町村数30町村(22町8村)

町村	区分	町村長	生年月日	当選回数	任期満了年月日	副町村長
東郡	平内町	船橋茂久	S24. 7. 17	1	27. 11. 14	山田光昭
	今別町	小鹿正義	S 6. 2. 18	3	25. 10. 12	阿部義治
	外ヶ浜町	森内勇	S13. 3. 2	2	25. 4. 23	
	蓬田村	古川正隆	S22. 6. 2	4	25. 11. 8	
西郡	鯡ヶ沢町	東條昭彦	S16. 4. 15	1	25. 12. 26	長内仁
	深浦町	吉田満	S28. 9. 9	2	28. 12. 20	本田満生
中郡	西目屋村	関和典	S42. 2. 24	2	26. 2. 25	
南郡	藤崎町	平田博幸	S32. 6. 2	1	27. 11. 19	
	大鰐町	山田年伸	S27. 3. 11	1	26. 7. 21	
	田舎館村	鈴木孝雄	S12. 2. 10	3	28. 11. 17	
北郡	板柳町	館岡一郎	S18. 3. 4	4	27. 4. 29	成田誠一
	鶴田町	中野撃司	S 4. 11. 7	10	26. 8. 20	山本一郎
	中泊町	小野俊逸	S17. 7. 29	4	25. 4. 23	
上北郡	野辺地町	中谷純逸	S24. 8. 16	1	27. 10. 26	杉田三生
	七戸町	小又勉	S24. 1. 2	2	25. 4. 23	大平均
	六戸町	吉田豊	S25. 3. 28	6	28. 1. 27	保土澤正教
	横浜町	野坂充	S26. 1. 31	3	28. 12. 11	新渡喜広
	東北町	斗賀壽一	S19. 7. 2	1	25. 4. 23	蛭名敏治
	おいらせ町	成田隆	S26. 2. 4	1	26. 3. 25	西館芳信
	六ヶ所村	古川健治	S 9. 5. 28	3	26. 7. 6	戸田衛
下北郡	大間町	金澤満春	S25. 3. 9	3	29. 1. 18	菊池武利
	東通村	越善靖夫	S17. 1. 7	4	25. 4. 12	林春美
	風間浦村	飯田浩一	S35. 5. 5	1	27. 4. 23	
三戸郡	佐井村	太田健一	S26. 11. 25	3	25. 4. 21	
	三戸町	竹原義人	S25. 11. 28	2	28. 12. 15	
	五戸町	三浦正名	S29. 1. 1	4	27. 6. 26	鳥谷部禮三郎
	田子町	山本晴美	S39. 4. 10	1	28. 1. 14	
	南部町	工藤祐直	S30. 5. 22	4	26. 2. 11	坂本勝二
	階上町	浜谷豊美	S31. 8. 23	2	25. 12. 23	久保和子
新郷村	須藤良美	S15. 3. 29	2	25. 5. 28	横田孝夫	



おいらせブランド確立へ

## 総合的な地域ブランド戦略の推進

看板郷土料理に「だるま芋へっちよこ汁」



へっちよこ汁の振舞い

おいらせ町は、平成十八年三月に百石町と下田町が合併して誕生しました。新町名「おいらせ」のネームバリューを活かし、奥入瀬川流域の豊かな自然に育まれた、豊富な地域資源を地域ブランドとして総合的に発信していくため、おいらせブランド推進協議会が主体となり、様々な活動を展開しています。

### 合併を機に 地域ブランド確立へ

おいらせ町は、平成十八年の合併を機に、おいらせブランドの確立に取り組んできました。以前は、農産物やその加工品、あるいは観光など様々な資源があるものの、それぞれ個別の事業展開となっていました。

しかし、それではアピール度も弱く、全体的な波及効果が期待できない、もっと総合的な取組みをと、平成十八年

度に「おいらせタウンプロジェクト」に「おいらせ事業計画」、十九年度には「おいらせ町地域ブランド戦略」を策定。「おいらせ」をキーワードに全国発信できる地域ブランドをつくらう、それを地域づくり、産業振興につなげようと、町総合計画に位置付け、取組みが本格的にスタートしました。

### ブランド推進協議会の 発足

このため、地域ブランドづくりの推進母体となる「おいらせ



おいらせ野菜スイーツの販売



第1回おいらせブランド認定品

らせブランド推進協議会（以下、協議会）を平成二十年度に設立、町も関係課が連携しサポート体制をとっています。協議会には町内のさまざまな分野の関係者が参加し、①観光交流②特産品開発③イメージアップなどの取組みを進めています。

具体的には、町のイベント（鮭まつりなど）と農業体験を絡めたモニターツアーの実施や地元産品を使った新たな特産品の開発、販売ルートの開拓、認定品制度の創設などです。また、都心のイベントに出店し商品PRをしながら

評価を受けてきました。

### ブランド品の認定とおいらせ野菜スイーツ

二十一年度には、おいらせブランドのシンボルデザインを制定。地場産品の認定審査を行い、おいらせブランド認定品として専用サイトで紹介しています。そして町商工会を中心に、町内の生産者と製菓事業者とが連携して、おいらせ町産の新鮮な野菜を素材に生かした「おいらせ野菜スイーツ」を開発。翌二十二年度から、町内で販売を開始しました。



モニターツアー



おいらせ屋内の様子

また二十三年度には、県立百石高等学校食物調理科の生徒と連携し、新たな看板郷土料理として「おいらせだるま芋へちよこ汁」を開発。今年度は料理レシピの要となる「だるま芋へちよこ」の商品化を図るとともに数々のイベントでの販売を行い、ご当地グルメの一つとしてPRを強化、活動の範囲を広げてい

### 「おいらせだるま芋へちよこ汁」の開発

クリエイティブ・コンセプト  
おいらせ、清らか

ブランドの物語  
清流。清風。清海。流れに育まれたおいらせの大地。  
清らかな想いが、自然と人々に広がっています。

キーワード  
清流に育まれた田園、清涼な気候、清新な町民気質、清潔な行楽地／街



おいらせブランドシンボルデザイン

ます。  
だるま芋はナガイモの一種で、ナガイモに比べて粘りと甘みが強いのが特徴。ふかしてかたくり粉と合わせて団子にし、すいとん風に仕立てられています。



おいらせだるま芋へちよこ汁

二十四年十二月からは、おいらせだるま芋へちよこ汁の町内飲食店での提供と、家庭用に商品化し、販売を始めました。さらに県立百石高等学校食物調理科では、へちよここのほかにだるま芋を使ったせんべい、ピザなどの商品化に向けた取組みも行われており、今後の更なるブランド化に期待がかかります。

### 中心市街地活性化と今後の展開

また二十四年度には、雇用復興推進事業を活用して旧百石地区商店街に、地場産品直販店「街なかサロンおいらせ屋」をオープン。中心市街地の活性化も視野に、新たな取組みをスタートさせています。こうした取組みの成果は一朝一夕に結果が出るものではありませんが、おいらせ町では、今後も継続的な取組みを推進することで、地域づくり及び産業振興を図っていくこととされています。

※お問い合わせは、おいらせ町役場企画課までお願いいたします。

【0178（56）4701】



食物調理科の杉浦君（写真中央）



問い合わせ先 道の駅いまべつ 半島プラザ「アスクール」  
TEL0174-31-5200

今別町で採れた新鮮なもずくを乾燥・粉末にして、うどん生地練り込んだ「もずくうどん」は、ミネラル・カルシウム・マグネシウムが豊富で、抗ウイルス作用があるフコイダンが含まれる健康食品です。道の駅いまべつ半島プラザ「アスクール」の食堂で食べる事ができ、お土産用もご用意しています。健康志向の方や、女性には特にお勧めです!

おいしいー!ヘルシーー!  
もずくうどん

いまが旬!  
いまべつまち  
**今別町**  
東津軽郡



問い合わせ先 鱈ヶ沢町地域資源活用推進協議会(町役場産業振興課内)  
TEL 0173-72-2111 (内線 255、256)

ほぼ一年を通して水揚げされる鱈ヶ沢産ヒラメは、白神山地の清流が流れ込む日本海が育んだ一品。その鱈ヶ沢産ヒラメを贅沢にヅケにし、たっぷりとご飯にのせた鱈ヶ沢町の新名物、それが『ヒラメのヅケ丼』です。

ヅケダレは店舗ごとに工夫を凝らしており、現在約10店舗で味わうことができます。

冬のヒラメは身が締まり、まさに今が旬!ぜひお試しください。

鱈ヶ沢名物『ヒラメのヅケ丼』を召し上がれ♪

いまが旬!  
あしがさわまち  
**鱈ヶ沢町**  
西津軽郡



問い合わせ先 一般財団法人深浦町食産業振興公社  
TEL 0173-82-0344

昨年7月から操業を開始した「深浦町農水産物加工場」では、1次加工品の提供の他、独自ブランド商品として「深浦素材」を開発しました。深浦産のタイや山なめこ、ふかうら雪人参など地域農水産物を使用したカレーやジャム等を、ウェスパ椿山及びアオーネ白神十二湖で販売中です。

深浦がギュッと詰まった商品を、ぜひ一度ご賞味ください。

深浦素材 展開中!

いまが旬!  
ふかうらまち  
**深浦町**  
西津軽郡



- 営業期間  
平成24年12月22日(土)～平成25年3月17日(日)予定  
※積雪状況によっては変更となる場合もあります。
  - 営業エリア 国際エリア
  - 営業時間 午前8時30分～午後5時  
※気象状況、その他により、営業開始時間及び終了時間を変更する場合があります。
  - リフト料金
    - リフト1回券 300円(大人) 250円(小人・シニア)
    - 1日券(土・休日) 3,000円(大人) 2,300円(小人・シニア)
    - 1日券(平日) 2,700円(大人) 1,800円(小人・シニア)
- 【お得な情報】  
リフト11回券や、5時間券などもあります。  
毎週土曜日は「キッズワンコインデー」リフト料金が500円(中学生以下)  
毎月第三日曜日は「スキーこどもの日」小学生以下はリフト・スキーレンタルが半額
- 【問い合わせ先 大鱈温泉スキー場 管理事務所 TEL 0172-49-1023】

大鱈温泉スキー場

いまが旬!  
おおわにまち  
**大鱈町**  
南津軽郡

いまが旬!

## 野辺地町

上北郡

のへじまち

ランタンの灯りと  
音楽で一杯いかが

「野辺地町駅前のにぎわい創出と雪に親しむ」をテーマにして2月2日(土)、野辺地駅隣の観光物産PRセンターを会場にして「のへじ停車場ランタンまつり」が開かれます。当日は、雪のランタン作りコンテストやライブステージ、屋台村、赤ちょうちんなどが予定されています。日暮れ時にはランタンへの点灯式も行われ、ランタンの淡い光と心地よい音楽の中で仲間と一杯傾けてみてはいかがですか。



問い合わせ先 のへじ停車場まつり実行委員会  
TEL 0175-64-3316

いまが旬!

## 七戸町

上北郡

しちのへまち

しちのへホワイトバトル  
2013

しちのへホワイトバトル2013を、2月3日(日)に七戸町中央公園内で開催します。

ホワイトバトルは7人対7人で行われる雪合戦で、シェルターという壁を使いながら競います。

相手の旗を奪うのか、雪玉を当てて全員アウトにさせるのか、タイムアップまで粘るのか、様々な勝利への戦略が参加者だけでなく観る者も興奮させてくれます。



問い合わせ先 七戸町役場商工観光課  
TEL 0176-62-2137

いまが旬!

## 東通村

下北郡

ひがしどおりむら

上質な味わいが  
自慢の東通牛

牛にとって快適な環境で育てられた黒毛和種『東通牛』は、肉質、味ともに絶品!

平成24年10月に長崎県で開催された「全国和牛能力共進会」でも上位に入賞するなど、全国でも高い評価をいただきました。

その良質の肉をじっくりと乾燥させて造った「ピフテキジャーキー」をはじめとする加工品も多数あり、お土産、贈答用に最適です。ぜひご賞味ください!



問い合わせ先 (社) 東通村産業振興公社  
TEL 0175-47-2115

いまが旬!

## 三戸町

三戸郡

さんのへまち

旬のおいしいーがっぱい  
「SAN・SUN産直ひろば」

三戸町の農家の皆さんが育てた、新鮮な野菜や果物、加工品などを多数取りそろえています。

食堂スペースでは、地元のお母さんたちが作るひつつみ定食(500円)が大人気。ダシのきいた汁に、練った小麦粉を手で引っ張り入れたひつつみは、優しくほっとする味で、体を温めてくれます。郷土食の串餅も実演販売しています。ぜひ、お越しください。



問い合わせ先 SAN・SUN産直ひろば  
TEL 0179-22-3266

## ● 共済契約できる自動車

1. あなたの所有する
2. あなたと同一世帯に属する親族（同居の親族）の所有する

- 自家用普通・小型乗用自動車
- 自家用軽四輪自動車
- 自動二輪車 ● 原動機付自転車

## ● 共済掛金と共済金額

共済金額	用途及び車種 区分	共済掛金額（年間）				
		自家用普通・小型乗用 小型貨物車(660cc超)	自家用軽四輪乗用 貨物車(660cc以下)	自動二輪車 (125cc超)	原動機付自転車 (125cc以下)	
A 型	対人賠償	30,000円	19,000円	17,000円	12,000円	
	対物賠償					無制限
	自損事故傷害共済					1,000万円
	限定搭乗者					1,500万円 500万円
B 型	対人賠償	33,000円	21,000円	20,000円	14,000円	
	対物賠償					無制限
	自損事故傷害共済					1,500万円
	限定搭乗者					1,000万円

※無共済等自動車傷害共済・他者運転特約も自動付帯。 ※自賠責保険と共済金の一括払も実施しています。

### 町村生協の自動車共済にご加入の皆様なら！

町村生協の自動車共済にご加入の方のみ、車両共済(保険)に加入できます

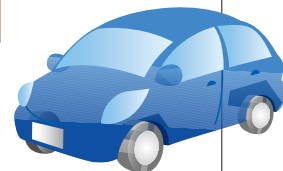
- 町村生協の自動車共済で過去3年間無事故で、新たに車両共済(保険)に加入する場合、新規契約と比較して

## 33%割引（9等級）からスタート！

- 一括払いでご契約の場合は、さらに **5%割引！**
- 保険料分割払（12回）も選択可能です。
- ロードサービスも無料でサービス！

いつでもご加入いただけますので下記までお問い合わせ願います。

問合せ先 全国町村職員生活協同組合青森県支部  
青森県町村会総務課〔共済事業〕 TEL017 (723) 1331



## 加入推進に理解と協力を

共済事業地区別事務打合会

本会は十月中旬から十一月下旬にかけて、県内八地区で、関係市町村及び一部事務組合等を対象に、災害共済関係事業地区別事務打合会を開催した。打合会では、事務局から各事業の制度内容及び加入推進に関して説明し、本会共済事業の加入推進への理解と協力を呼びかけた。

### 主な打合事項

- 1 生協自動車共済車両保険及び生協特定疾病保険について
- 2 平成二十四年度災害共済事業について
- 3 平成二十四年度公共建物火災予防及び交通安全運動の実施要綱について
- 4 平成二十四年度全国町村職員生活協同組合共済事業加入推進運動実施要綱について
- 5 個人年金共済 平成二十五年新規・更新加入の取扱について
- 6 任意生命共済 平成二十五年新規・更新加入の取扱について
- 7 職員生協火災・自動車共済 平成二十五年一月継続の取扱について
- 8 自動車事故について

### 開催日及び対象地区

- 十月十五日（月） 上北郡・三沢市・十和田市
- 十月十六日（火） 上北郡・三沢市・十和田市
- 十月十七日（水） 中南郡・黒石市・平川市
- 十月二十三日（火） 西北郡・五所川原市・つがる市
- 十月二十四日（水） 西北郡・五所川原市・つがる市
- 十月二十五日（木） 三戸郡
- 十月三十日（火）

確かな安心を！

# 住宅火災共済



## 安い掛金で大きな補償を

### ●共済契約できる物件

- あなたの所有する居住用建物、または、その建物内にある動産
- あなたと同一世帯に属する親族が所有し、かつ、あなたが現に同居している建物または、その建物内にある動産

### ●共済掛金と共済金額

共済掛金（年額）は共済契約1口（10万円）につき60円です。

契約額の最高限度は、600口で、6,000万円が限度です。

共 済 契 約 の 最 高 限 度			
区 分	口 数	共済金額	共済掛金
建物のみの場合	400口	4,000万円	24,000円
動産のみの場合	200口	2,000万円	12,000円
建物と動産を併せた場合	600口	6,000万円	36,000円

### 風水雪害特約制度

風水雪害特約制度は、風水雪害による損害について、火災共済契約に任意に付加することにより共済金を支払う特約制度です。特約を付加していない場合、風災、水災又は雪災による損害は、損害額が50万円以上の場合、損害の程度に応じ給付され、全損の場合では100分の10又は450万円のいずれか低い額の給付ですが、特約に加入することにより、火災共済契約の風水雪害共済金に加算して風水雪害特約共済金を損害額の50%又は火災共済契約額の50%のいずれか少ない額を限度に支払います。（ただし、風水雪害共済金と特約共済金の支払合計額が3,000万円を超える場合、3,000万円が限度となります。）特約共済掛金は、一口10万円につき50円です。（火災共済契約と同額を特約共済金額とします。）



鼎談の様子

本会が設立に携わった市町村職員等の自主研究会のうち、上十三地域づくり研究会並びに下北地域づくり研究会は本会との共催により、十一月十七日、十和田市の奥入瀬溪流ホテルで「市町村職員自主研究」講演会を開催した。出席者は、両研究会会員のほか、県内市町村職員等約四十人。本講演会の開催は、今年で三回目。昨今、住民に身近な課題や魅力あるまちづくりについて、住民自ら解決していく住民主体のまちづくりが求

## 自主研修で資質向上を

「市町村職員自主研究」講演会

められており、この住民と行政が協力連携する「協働のまちづくり」をテーマに、講演及び鼎談を行った。

講演会では、両研究会のアドバイザーである青森公立大学経営経済学部为天野巡一教授が所属している自主研究会で長年にわたり共に活動してきた、元武蔵野市都市開発部長の伊藤隆造氏並びに元国分寺市開発担当部長で獨協大学法学部兼任講師の小口進一氏が「住民との協働によるまちづくりの現状と課題」と題し講演したほか、「まちづくりと住民」と題して、天野教授、伊藤氏、小口氏による鼎談が行われた。



アドバイザーの天野巡一教授

いいだ  
飯田

こういち  
浩一

風間浦村長



随想

第16話

プロフィール

村議会副議長。現在1期目。  
52歳。



「風間浦鮭鯺」の雪中切り実演の様子

なく、丸二年が過ぎよう

返っています。

平成一三年四月には、

活動を続けました。

多岐の支持をいた

た私です。

地方自治に係る友人と語

り合う機会が多く、いつし

なく、丸二年が過ぎよう

返っています。

平成一三年四月には、

活動を続けました。

多岐の支持をいた

た私です。

地方自治に係る友人と語

り合う機会が多く、いつし

なく、丸二年が過ぎよう

返っています。

平成一三年四月には、

活動を続けました。

多岐の支持をいた

た私です。

地方自治に係る友人と語

り合う機会が多く、いつし



「風間浦鮭鯺」まつりは来場者で大盛況

かざまうらあんこう  
『風間浦鮭鯺』を  
ブランド化へ！

海と山に囲まれた、風間浦村は、津軽海峡の水平線に、自然豊かな、人情味あふれる人が住む、私の生まれ育ったふるさとです。

な車修理工場の主となつてい

としています。

「好機逸すべからず」を肝

また、村の基幹産業で

「好機逸すべからず」を肝